

総取扱高の暫定ランキングTOP20

順位	社名	今年度総取扱高 (千円)	前年度 増減率	今年度人材派遣事業に 関する取扱高(千円)	前年度 増減率	総取扱高に占める 派遣事業の割合	決算月	本社所在地	従業員数(連結・ 契約社員含む)
1	パーソル ホールディングス(株)	925,818,000	28.2%	509,538,000	5.9%	55.0%	3	東京	45,434
2	(株)パソナグループ	326,984,000	5.0%	158,601,000	-0.8%	48.5%	5	東京	9,317
3	(株)スタッフサービス ホールディングス	304,900,000	9.0%				3	東京	4,026
4	(株)リクルート スタッフィング	223,932,000	2.0%				3	東京	2,292
5	アデコ(株)	168,300,000	4.5%				12	東京	3,000
6	(株)ウィルグループ	103,300,000	30.3%	77,523,000	37.3%	75.0%	3	東京	4,265
7	日研トータル ソーシング(株)	89,042,000	18.6%				3	東京	
8	日総工産(株)	69,161,000	16.8%				3	神奈川	1,903
9	ライク(株)	47,797,835	4.6%	14,569,230	6.1%	30.5%	5	大阪	6,865
10	WDB ホールディングス(株)	41,569,000	9.4%	36,379,000	8.8%	87.5%	3	兵庫	1,093
11	(株)夢真ホールディングス	40,419,000	32.5%	39,978,000	33.3%	98.9%	9	東京	10,525
12	(株)グロップ	38,062,000	17.7%	31,700,000	18.7%	83.3%	8	岡山	15,649
13	(株)東京海上日動キャリアサービス	31,742,000	-1.5%	29,277,000	-1.9%	92.2%	12	東京	522
14	キャリアリンク(株)	18,624,675	11.0%	15,718,916	25.7%	84.4%	2	東京	591
15	(株)ディンプル	13,806,000	4.8%	6,906,000	11.8%	50.0%	2	大阪	3,175
16	(株)ソシアリンク	13,284,135	4.2%	10,345,529	6.5%	77.9%	2	東京	4,144
17	(株)モトヤ	10,853,000	-0.4%	1,097,117	-2.4%	10.1%	3	東京	131
18	(株)エスプールヒューマン ソリューションズ	10,382,000	34.0%	9,918,000	28.4%	95.5%	11	東京	390
19	戦力エージェント(株)	10,261,970	-1.1%	10,243,872	-1.0%	99.8%	8	東京	158
20	(株)センチュリーアンドカンパニー	10,204,734	3.7%	2,065,000	0.9%	20.2%	2	東京	1,200

総取扱高の分析ポイント

現時点ではまだ51社分のみということもあり、前年度のランキングTOP20との比較は難しいが、総取扱高(連結)に関しては業界大手がほぼ軒並み数字を伸ばしている。一方で中小規模事業者においては前年度比での傾向にかなりばらつきも見られる。

例えば前年度のランキング20社において、総

取扱高で増減率がマイナスの事業者は1社もなかったが、今回の暫定ランキングでは3社も見られた。

人手不足を背景に人材紹介事業も好調であり、人材派遣事業のみならず、人材紹介会社をグループ会社に持つ規模感のあるところほど、業績への寄与は大きい年度だったと見るべきか。

2018年度人材ビジネス会社「業績ランキング(暫定)」速報

暫定ランキング1位はパーソル  
暫定5位までは前年度と同順位

上位5社は前年度と変わらず

2018年度の「業績ランキング(暫定)」における第1回目の集計は、回答母数が51社であることから、あくまでも9月5日時点での暫定ランキングであることは、あらかじめお断りしておきたい。

そのためランキングの細かい分析は、もつと回答母数が多くなる次回以降に譲りたいと思うが、暫定ランキングのトップ10を見ると、やはり業界大手の人材ビジネス会社が顔をそろえるのは例年とそれほど変わらない。

特にトップ5の顔ぶれを見ると、暫定1位は、昨年と同じくパーソルホールディングス。総取扱高では925億8180万円と他社を大きく引き離し、かつ増減率においても大手では異例の前年度比28.2%というデータからは、業界全体における業績アップのけん引役であることに異論を挟む余地はなさそうである。

暫定ランキングのトップ5に目を広げると、パーソルホールディングスほどではないものの、パソナグループ、スタッフサービスホールディングス、リクルートスタッフィング、アデコのいずれも対前年度の増減率はプラス。順位も前年度と同じであった。

人手不足を追い風とした人材派遣事業、そして人材紹介事業等の近年の需要増を考えれば、2018年度の業界大手が軒並み好調であることは、ある程度、想定内ではあるだろう。トップ10内における増減率で目を見張るの

は、ウィルグループの躍進であろう。前年度は11位であったウィルグループ。暫定ランキングではあるものの、今回は増減率30%超でランキング6位に。総取扱高においては今回、前年度の791億9700万円から1033億円へ。1000億の台に乗せている。人材派遣事業に関する取扱高は、別枠として23頁でも触れているので、そちらを参照いただきたい。

エリア別上位は「東京」一強のまま

集計した51社を都道府県のエリア別に見ると、今回の集計では本社所在地が「東京」が30社と最多。これを「総取扱高」の暫定ランキングで見ると、ベスト20内では「東京」は15社、「大阪」は2社と圧倒的に東京勢が多く、これは前年度と変わらない。

実際、今回の業績アンケートにおいても「エリア別」のランキングを掲載しているが、その順位はパーソルホールディングス、パソナグループ、スタッフサービスホールディングス、リクルートスタッフィング、アデコとなっており、「総取扱高」ランキングと同じである。

ランキングが確定する来年3月号においては、「エリア別」における地域の雄のクロウズアップだけでなく、「業界・業種別」ランキングにおいても同様にスポットを当てたいと思っている。